里　山　と　昆　虫　類

大阪府立大学農学部昆虫学教室　石　井　　実

THE COUNTRYSIDE COPPICE AS THE HABITAT OF DIVERSE INSECTS

Minoru Ishii *Entomological Laboratory, College of Agriculture, University of Osaka Prefecture.*

里山は多種多様な昆虫類の生活場所である。例えば，カブトムシやクワガタムシ類などの甲虫類，オオムラサキやサトキマダラヒカゲなどの蝶類は，一生のほとんどの時間をクヌギやコナラを主体とする里山林内で過ごす。無数のトビムシ類が落葉層にいて，分解者として活躍していることも忘れてはならない。一方，マユタテアカネなどのトンボ類のように，未成熟期の生活場所，あるいはねぐらとして里山林を利用する昆虫もいる。人里草原も，オオウラギンヒョウモンなどの草原性の蝶類やクツワムシなどの直翅類の生活場所として重要であった。

昆虫類は植生の微妙な変化（遷移）によく反応する。適度に草刈が行われるシバ型草原で発生していたオオウラギンヒョウモンは，全国各地で激減し，今や環境庁 RDB の絶滅危倶種となっている。また，目黒の自然教育園では，1949年に園内の自然環境が天然記念物に指定されたが，園内の雑木に生息するミドリシジミ類はブナ科樹木の成長とともに減少し，何種かは絶滅した。

大阪や奈良の各地（都市公園を含む）で実施した蝶類相調査の結果を整理すると，照葉樹林を主体とする場所では個体数は少ないが，多様度は高く，適度に里山的環境では多様度はやや低いものの個体数の多い蝶類群集が存在することが明らかになった。とは言え，種構成は当然異なる。

したがって，昆虫類の多様性を確保するという観点からすれば，照葉樹林的な部分やマント群落・ソデ群落を含む林縁環境，草原的な環境を含めた形で里山を管理すべきである。

また，種々の雑木を含む低木層，ササ類を含む草本類，コケ層，落葉層などの段階構造を重視し，各段階にある倒木や朽木などを放置することも，多くの昆虫類の生活場所を保障する意味で大切である。